



7月 土居隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
				1 入居相談 10:00~	2	3
4	5	6	7 七夕	8 入居相談 10:00~	9	10
11	12	13	14	15 入居相談 10:00~	16	17
18	19	20	21	22 海の日	23 スポーツの日	24
25	26 職業相談 10:00~	27 3B体操教室 10:00~	28	29 入居相談 10:00~	30	31

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。ご了承ください。

隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

悩んでいることはありませんか？

隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」、「職場や学校に行けない」など何でも相談してください。また、毎月25日（原則）は、ハローワークの巡回相談（職業相談）を行っています。

土居隣保館便り

7月号

発行:土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原 5-400-3 TEL/FAX 28-6356

館長の気づき

ソ連兵に差し出された女性

五木寛之さんの「嫌老社会を超えて」という本の中に、五木さんが満州から命からがら引き揚げてきた時のことが書かれていました。ズキッと胸に刺さる内容で、皆さんと共に考えることができればと思い紹介します。

「外国の軍隊というのは、最前線に犯罪者だとか脱走兵だとかそういう人間を立てる。敗戦時に、僕ら家族は北朝鮮の平壤にいたのですが、旧満州からの引揚者を含めて、多くの日本人が移動できなくなっていた。そこに入ってきたのが、ソ連軍の、今言ったような最前線の連中です。ある土地を占領したら、一週間ぐらい略奪、暴行のやり放題のいわばボーナスが与えられるのが常識。

だいたい20人くらいが一部屋に押し込められていたんだけど、そこに兵隊がやってきて、カラシニコフ（自動小銃）を突き付け「女を出せ」と言うわけです。すると長老みみたいな人が「あの人は子どもがいるから…」なんてこそこそ相談して、結局、元水商売風の人とかしかるべき人、押し出されるようにして…。言うことを聞かなければ、自分たちが殺されるとおびえているわけだから。

（裏面へ続きます→）

でも一番こたえたのは、ある日の朝方、連行された女性がぼろ雑巾にな
って帰ってきた時の周りの対応でした。一人の母親が、その女の人の方
に行こうとした自分の子どもを「病気をもらっているかもしれないから、
あの人に近づくんじゃないの」と小声で叱るのを耳にしたんです。

本当だったら、土下座して涙流して謝ってもいいはずでしょう。結
局戦争ってそういうものなんですよ」と五木さんは言っています。

読み終えて、多くの無関係の人を容赦なく巻き込んでしまう戦争の罪深
さ、戦争はいかに人の心を破壊してしまうか思い知らされました。「み
んなの身代わりにされた女性になんてひどい仕打ちをするのか。自分さえ
よければいいのか」と、この一人の母親の言動を責められるでしょうか。
その場にいた周りの人たちを身勝手だと決めつけられるでしょうか、ソ
連兵の行為を避難できるでしょうか。遠く離れた安全なところから正論ら
しきことはいくらでも言えます。

五木さんのように、その場に居たらどうだろうと考えると、うっと詰
まってしまいます。きっと命惜しさに、その場の流れに流されてしまう
のではないだろうか。極限の状態に置かれた時、人はどうなってしまう
のだろうとあれこれ考えているうちに、こういう部分を内包しているこ
とを普段、自覚しないまま生活している自分がいることに気づかされまし
た。

コロナウイルス禍での医療従事者等への誹謗中傷や排除の行為が「あ
の人に近づくんじゃない」と子どもを叱る母親の行為と重なります。

ど いりんぼかんかんちょう むらかみ せいてつ
土居隣保館館長 村上 正哲

新型コロナウイルスのワクチン接種に関する人権への 配慮について

感染収束に向けて効果が期待される新型コロナウイルスワク
チンですが、体質や持病など様々な理由で、接種を受けること
ができない人もいます。

ワクチン接種を受けることは強制ではなく、感染予防の効果
と副反応のリスクの双方について理解した上で、自らの意思で
接種を受けていただくこととなります。

接種をしていない人に対して、接種の強制や差別、いじめ、
職場や学校において不利益な取り扱いは決して許されるもので
はありません。一人ひとりがお互いを思いやり、人権が尊重さ
れるまちづくりにご協力をお願いします。

